

普及活動情勢報告（平成29年2月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

トルコギキョウの産地を目指して ～JA高知春野花卉部会視察研修～



篤農家の技術を熱心に勉強する生産者

普及所では、JA 高知春野花卉部会に、昨年度から有望品目としてトルコギキョウ栽培を推進し、技術指導を行っています。そこで、1月27日、さらなる栽培技術の向上や、販売流通面の強化のため、農業技術センターと芸西村で視察研修を開催しました。

現地ほ場では、篤農家の栽培技術のほか、品種選定や3輪咲きをいかに作り所得を上げるかのポイントを聞くことができ、大変有意義な研修となりました。

今後も、視察研修や勉強会を通して、春野ブランドのトルコギキョウ産地を確立できるよう、栽培・販売面で支援していきます。

さらなる飛躍と広がりを目指して ～環境制御現地検討会～



生育とデータを見比べる生産者

1月27日にJA高知春野で、生産者11名の参加の下、キュウリの炭酸ガス施用実証ほ場での現地検討会を行いました。炭酸ガス施用を検討中の生産者も参加しており、「収量アップが可能か?」「機器の取り扱いが簡単か?」「炭酸ガス濃度は?」など多くの質問がでました。普及所は実証ほでの炭酸ガス濃度の状況、開花・収穫位置などの生育調査の結果を説明しました。今後、生産者が主体となって開催する現地検討会（1回/月）に参加し、指導・助言を行うとともに、生産者が自ら生育調査・記録を行うよう指導していきます。

伝統野菜への消費者ニーズは? ～「土佐野菜マルシェ」～



大勢の来客者で賑わったマルシェ

1月29日、高知市南御座の「香稜苑」において、「Team Makino」＋サポーターズ主催による、伝統野菜の即売会『土佐野菜マルシェ』が開催されました。

事前にチラシ配布の他、メディア告知を行った効果もあり、開始と同時に約100名のお客様が殺到し、総勢202名の来場者数となりました。さらに当日はTV局1社、新聞3社の取材も入り、「伝統野菜」の訴求力・販売力が改めて証明されました。

普及所は今年度、「Team Makino」の事務局として活動を支援して来ましたが、来年度はさらに発展するよう、PR活動を強化すると同時に、生産力の向上にも支援していきます。

簡単！美味しい！の声があがった ～トマト出前事業～



調理実習中の野村さんと生徒達

1月31日に春野町の「トマトの村」の野村さんと一緒に、行川小中学校の7年生を対象に出前授業をしました。1時間目は「トマトの村」の概要と仕事の紹介を、普及所からは県下のトマト栽培の実情と栽培のポイントについて座学を行い、生徒からはたくさんの質問が出ました。2時間目は野村さんの調理実習で「トマトの村」の大玉トマトを使ってトマトのスープとはちみつ漬けを作りました。

講師の野村さんは、座学でも調理実習でも活気あふれる生徒さんの表情を見て、「将来、誰か高知県の農業を担ってくれないものか」と期待していました。

取り組みの報告と提案をしました！ ～鏡村直販店組合定期総会～



いろいろな提案をしています

2月17日、高知市中山間地域構造改善センターで約70名の組合員が出席し、定期総会が開催されました。

総会後の研修会では、普及所から需給ギャップ解消をねらったインゲンの抑制裁培や夏秋キュウリの栽培実証結果を報告しました。また、組合員アンケート結果に基づいて、ミニハウスを用いた作型の分散やインターネット販売の可能性、午後出荷の試験販売などの提案をしました。また、2月の販売額の落ち込みを示すグラフやインゲンの品種による収量の違いについては、組合員の皆さんに興味を持っていただけました。

今後も、普及所などで構成するチーム会で協議をしながら直販店の活性化に取り組んでいきます。